

# 前置詞から見る、 英語学習者の母語による言語習得の比較

ドイツ語専攻 菊地美乃里

## はじめに・目的

・NICE学習者データと英語母語話者のデータを比較すると、母語話者データのほうでは前置詞句の一部が多く検出された。(阪上・古泉 2008)

→ネイティブのように前置詞を使用していたら、それは「上達した」と言えるのではないだろうか。

★言語習得の度合は母語によって差が出るのかを前置詞の使用状況を通して比較する。

1. 総語数中の前置詞の割合

2. よく使用される前置詞

3. 頻度が高い前置詞の偏り

これらを異なる母語話者による英作文で比較する。

### 使用コーパス：ICCIとBNC

ICCI内のオーストリアのドイツ語話者(5～11年)と日本の日本語話者(7～12年)の全英作文。および、ネイティブとの比較としてBNCコーパスの書き言葉データを使用。

### 使用タグ：IN(前置詞または従属接続詞)とTO(to)

ICCIのデータにTagAntでタグ付けをおこなった。明らかな違い(例：直後に動詞原形の来るtoなど)については手作業で取り除いた。

### 参考：英語教育

#### オーストリアの英語教育

Volksschule(小学校)1年から原則として外国語を学ぶことになっている。最初はライティングをあまり重視せず、リスニング優先

#### 日本の英語教育

2011年から小学校5・6年での「外国語活動」が取り入れられている。教科としての「英語」は中学から

ABC

## 結果②：作文内で使用される前置詞

		1	2	3	4	5
BNC		of	in	to	for	on
de	5	in	with	to	at	of
	6	in	with	for	of	to
	7	in	to	of	with	for
	8	in	for	of	with	to
	9	in	of	to	for	on
	10	for	of	in	with	to
ja	11	for	in	of	on	with
	7	in	to	of	with	for
	8	in	to	for	of	at
	9	in	for	of	to	than
	10	in	for	of	to	than
	11	for	in	of	to	on
12	in	for	of	to	on	

BNCのデータでトップ5に入った前置詞には赤い背景を、トップ10に入った前置詞には黄色い背景を付けた。

ドイツ語話者にはwithを過剰使用する傾向、日本語話者にはthanを過剰使用する傾向があった。

ネイティブと違い、ofよりinやforが多く使われている。

共通する7年生～11年生の間では、両母語話者の間で変化のしかたに大きな差はなかった。

## 補足：前置詞inの直後に来る単語の違い

		1	2	3	4	5
de	5	the	Vienna	Austria	a	my
	6	the	Vienna	a	Austria	your
	7	the	my	a	New	this
	8	the	my	a	your	this
	9	the	my	a	all	Vienna
	10	the	my	New	a	Vienna
ja	11	my	the	a	their	your
	7	the	my	winter	this	morning
	8	the	my	this	a	breakfast
	9	the	my	a	this	our
	10	the	my	morning	a	breakfast
	11	the	my	Japan	a	morning
12	the	Japan	a	my	morning	

青字は地名、赤字はエラーを指す。

ドイツ語7年のNewはすべてNew Yorkとしての使用、10年のNewはすべてNew Zealandとしての使用だった。

地名の使用は、作文のトピックによる影響が大きいと考えられる。

## 参考②：ドイツ語の前置詞

- ・ in(in) für(for) zu(to)のように、つづりや発音が英語に似た語も多い
- ・ しかし1:1で対応しているわけではない  
例：in die Stadt gehen(町へ出掛ける)
- ・ 前置詞と直後の冠詞が繋がって1語になることもある  
例：in(前置詞)+das(冠詞)+Kino(名詞)→ins Kino

## 方法

### ①総語数の中の前置詞の割合

- ・ 各データをAntConcで読み込み、Word Tokensの数とINおよびTOタグの数を調査
- ・ 但し、両コーパスには一部の従属接続詞も含まれている
- ・ BNCは1000万語中の割合を表示

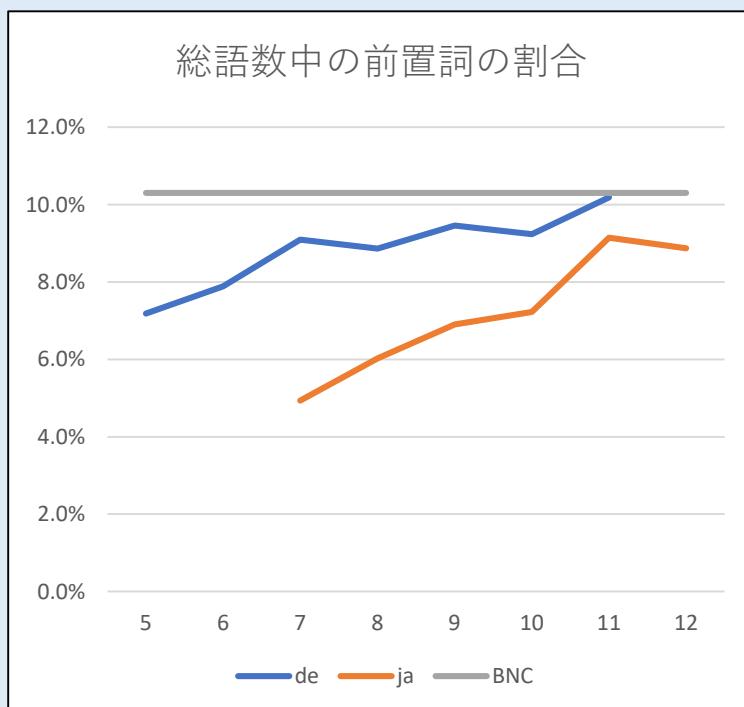
### ②作文内で使用される前置詞

- ・ INタグで検索、使われている全ての前置詞をリストアップした上で個々の単語を検索、並び替え
- ・ ifなどの従属接続詞は**除き**、純粋な前置詞のみをできるだけ数える

### ③使われる前置詞の偏り

- ・ 各学年使用数上位5と10までのINタグとTOタグの語が、両タグ全ての単語の使用回数中どれだけの頻度で登場するかを調査
- ・ 参考として、BNCの上位5つと10つの単語についても調査

## 結果①：総語数中の前置詞の割合

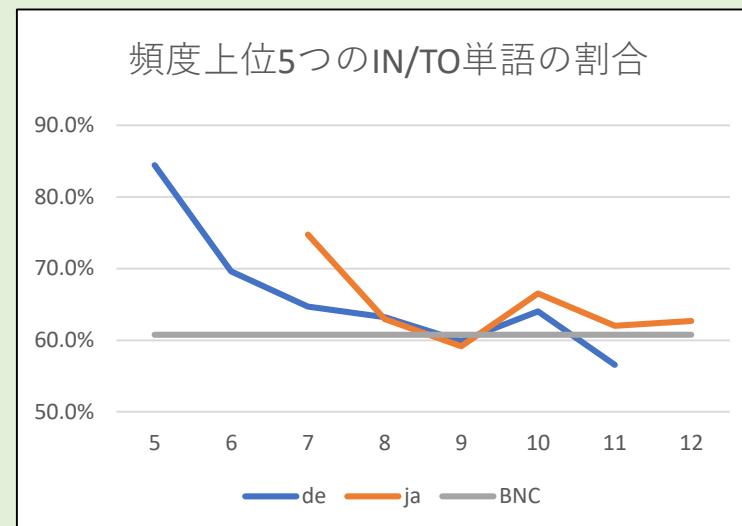


学年が上がるにしたがって、ドイツ語話者と日本語話者間での差は縮まっている。

ドイツ語話者は7～11年生の間で伸びに停滞がある。また、11年生の時点ではほぼネイティブと同じ程度の割合で前置詞が使用されている。

日本語話者の7年生は前置詞の使用率がネイティブと比較すると極端に低く、約半分である。

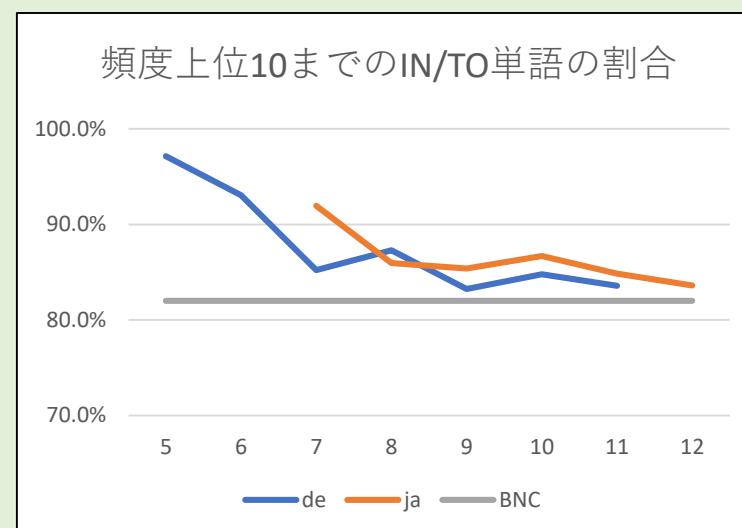
## 結果③：使われる前置詞の偏り



結果①のときと異なり、スタートラインの時点では日本語話者のほうが数値的にはネイティブに近い。

8年生の時点で両者の数値がほぼ同じになる。

その後はどちらもネイティブの数値周辺で微増と微減を繰り返している。



数値の下がり方は上位5つのグラフと比べてより緩やかである。

数値が85%程度になってからは、割合の現象が更に緩やかになる傾向がある。

上位5つのときと同様、8年生以降は両者に大きな差はない。

## 考察

- ・ どちらの母語話者でも11・12年生の時点では、数値的にかなりネイティブに近づいていることが分かったが、一つの観点だけを見て「前置詞の使用能力が上達した」と言うことはできない。
- ・ 前置詞のあるドイツ語の話者でも、いきなりネイティブと同じように前置詞を使って英作文を書くことは困難であり、特に学習初期段階においては、そのバリエーションに偏りが見られる。
- ・ 「ネイティブらしさ」を更に追求するなら、ofをどのように使えるかが重要になってくるだろう。
- ・ 前置詞単体だけでなく、コロケーションとして見ることによって、それぞれの前置詞の過剰/過少使用の原因が更に分かるかもしれない。